

2019年2月6日

報道関係各位

株式会社トーヨー建設
代表取締役 岡田吉充

「ベトナム国ハノイ市における分別およびメタン発酵発電による一般廃棄物の有効利用事業」ワークショップ開催のお知らせ

株式会社トーヨー建設（本社：東京都葛飾区）は、昨年10月より、「平成30年度我が国循環産業海外展開事業化促進業務」を環境省から委託を受け、日本国環境省、在ベトナム日本国大使館、JICA、その他の機関のご支援をいただきながら現地調査を実施してまいりました「ベトナム国ハノイ市における分別およびメタン発酵発電による一般廃棄物の有効利用事業」について、下記のとおりワークショップを開催いたしますことをご知らせいたします。

日 時	2019年2月26日（火） 14:00～17:00
場 所	Hotel du Parc Hanoi（ホテル・ドゥ・パルク・ハノイ） （住所）84 Tran Nhan Tong Street, Hai Ba Trung District, Hanoi, VIETNAM（旧ホテルニッコーハノイ）
概 要	<ul style="list-style-type: none"> ● 当事業のご紹介 ● 現地一般廃棄物の組成分析結果について ● 今後の事業計画について、等
	

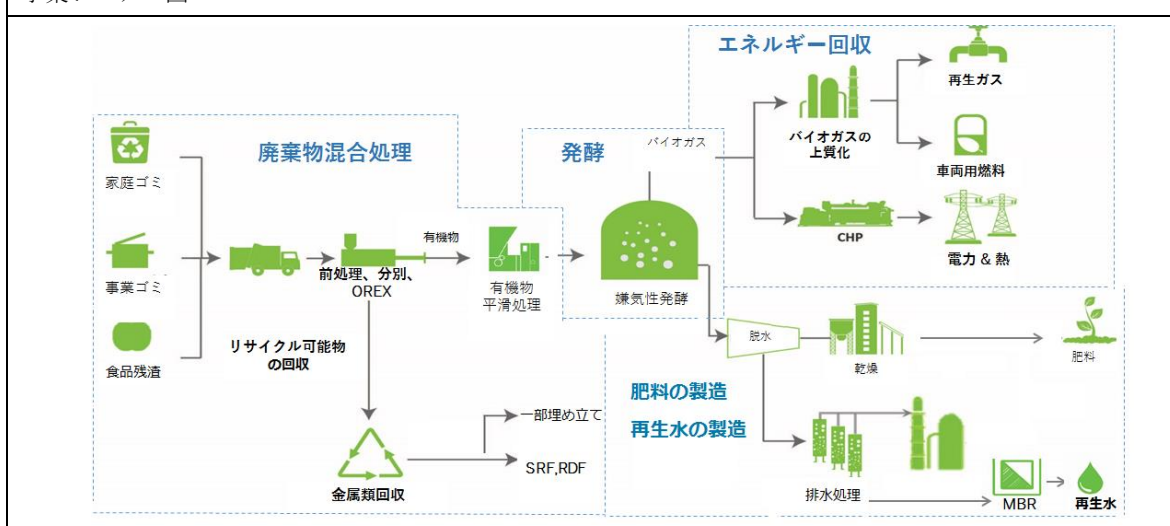
■事業の概要

ベトナムでは、経済発展・人口増加に伴い、一般廃棄物の排出量が急激に増加する一方、その適切な処理方法が確立せず、埋立処分場の不足をはじめとする様々な課題が生じています。本事業はハノイ市で発生する日量約 6000 トンの一般廃棄物のうち、受け入れ容量世界最大規模となる日量約 1500~2000 トンを適切に処理し、エネルギー利用と堆肥化をおこなう事業です。主に家庭から排出される廃棄物を前処理で有機系廃棄物とリサイクル可能品に分別します。有機系廃棄物は、専用開発されたプレス機で平滑処理され、嫌気性発酵槽に移送後メタンを主成分とするバイオガスが発生し発電をおこない、発酵残渣は脱水装置に送られ、固形堆肥となります。分別したリサイクル品の一部は RDF や SRF 化して資源の循環をおこない、最終処分量を大幅に削減します。

副産物として生成される消化液や固形堆肥は良質な有機肥料であり、農業利用を広くおこなうためにベトナム国家農業大学と共同研究をおこなう提携をしました。

これまでベトナムでは一般廃棄物のメタン発酵発電の実績が少ないため、本プロジェクトの成功によりベトナム政府の一般廃棄物処理政策を後押しすることになり、再生可能エネルギーによる低炭素社会と持続性社会発展の実現に寄与します。

事業システム図



■トーヨーグループについて

トーヨーグループは、建設事業を基盤に再生可能エネルギー事業に参入し、積極的に事業開発を進めています。石川県輪島市では間伐材等を活用した木質バイオマス発電設備、兵庫県養父市の国家戦略特区でメタン発酵バイオマス発電設備と農業施設、インドネシアでは JCM を利用した 12MW 小水力発電設備、福島県を中心に太陽光発電設備、筑波大学と農業事業等の共同研究など、全てのプロジェクトをエンジニアリングからおこないます。今後あらゆる分野にてさらなる雇用創出や地域経済の活性化のみならず、CO2 削減に寄与してまいります。

《お問い合わせ先》 株式会社トーヨー建設 ワークショップ担当 石坂
電話：03-5694-1321 E-mail：ishizaka@toyo-group.com